

唐丹民話・6話「山谷地区」

# 狐に諭された男親



平成19年3月

唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ

## 目 次

### —狐に諭された男親—

唐丹民話の再話著作にあたって	2
1. 別れた夫婦	3
2. 子を思う親心	3
3. 狐に諭されて	4

## 唐丹民話の再話著作にあたって

唐丹公民館の自主パソコンクラブ（設立：平成17年6月／名称：唐丹・愛ちゃんネットクラブ）では、パソコンによる文章作成を習得した証と民話を伝承する狙いを含めて民話の再話著作活動を実施しました。

文章作成の教材は、釜石民話の会（平成2年発足）の機関紙「釜石民話」を活用させていただきました。

この釜石民話の中から、唐丹に関り、かつ再話できるものを選び。その根底にあるものを変えないことを基本に「見やすく」、「読みやすく」、「分かりやすく」するために小見出しを付け、写真や絵図などを挿入。できるだけ、関連する歴史や実話を織り込みながら作成しました。

いつの日か、この冊子が誰かの目に留まり、唐丹にもこんな話があったのかと唐丹の「いにしえ」に想いをはせる一助になれば幸いと思います。

おわりに、この活用させていただいている民話は、釜石民話の会会員でありました唐丹町片岸の加藤ムツさんが採録（聴き取り）したものであり、第1集から第6集に掲載の民話の数は92編を数えます。

加藤ムツさんの民話を伝承したいという、この熱意と努力に敬意を表するとともに、故人となられました加藤ムツさんのご冥福をお祈り申し上げます。

なお、この物語の「狐に諭された男親」は、釜石民話第1集「狐にだまされた話その1」を再話著作したもので、その原文は次のとおりであります。

ある部落に夫婦の折り合いが悪く離婚を余儀なくした男がいたそうです。

ある日離婚した妻が子供を連れて合いに来たので、町の「はたごや」で、食事をしながら、子供の成長をみながらいろいろと話し合いました。

夜中の12時過ぎに、山間の道を子供の哀れさに胸をいためて帰りました。その途中に山神様を祀っている祠を過ぎると、突然に子供の大きな泣き声がありました。いくら追い払っても泣き声はやみません。たまらなく恐ろしくなって、道路の大きな木にすがりついて大声で騒いだら、ぱったりと子供の声が聞こえなくなりました。人間の弱さにつけ込んだ狐の仕業と今もってかたられています。

原文は、おしまい

## 狐に諭された男親

### 1. 別れた夫婦

むかし、この村のある山あいの部落に、仲の悪い夫婦とその子供がいました。みかねた親戚の人たちが中に入り、何度も話し合いました。

それでも折り合いがつきません。しまいには、女が子供を引き取り、とうと別れてしまいました。



(山あいの家)

それから何年か過ぎたある日、別れた女が、子供を連れて男に会いに来ました。

男は、二人を町の「はたごや」に連れて行き、親子3人で久しぶりの食事をしながら、子供の成長ぶりや、これからのことを夜遅くまで話し合いました。

### 2. 子を思う親心

男は、二人を「はたごや」に泊め、家にかえろうと、そこを出たのは、夜中の12時を過ぎていました。



(心配し男を窺っている狐)



(山あいの夜道)

山あいの道のりを、片親しかいない子供の哀れさに胸をいため、時々涙をふきながら、一人トボトボと歩いていました。

家までの道のりに山神様を祀っている祠があります。そこを過ぎたころ、突然、子供の大きな泣き声がしました。

男は、びっくりして目を凝らし、辺りを見回しても、何も見えません。その泣き声は、ますます、大きくなるばかりで、なかなか止みません。

### 3. 狐に諭されて

怖くなった男は、道のそばの大きな木にすがり付いて、大きな声を張り上げ、ただただ、騒ぎまくりました。

しばらくすると、ぼったりと子供の声が止み聞こえなくなりました。

我にかえった男は、子供を悲しませてしまった、親への何かの戒めではと強く感じました。

これを聞いた部落の人たちは、狐が、人間の弱さを諭した話として、今もって語られています。



(男を諭した狐)

おしまい

◎釜石の民話・第1集：狐にだまされた話 その1

○話 し 手：不 詳（地区不詳につき山谷地区とした）

○聴 き 手：加藤ムツさん／片岸

●再話著者：留畑孝子／片川地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●写真撮影者：同 上

●校正指導者：新沼 裕／本郷地区（唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●再話完成：平成19年3月